

# 北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪 ボランティアシステム構築に関する実践的研究 (5) —参加回数で異なる参加動機とエンパワーメント— Practical Study on the Volunteer for Snow removal

中前千佳, 小西信義, 村中康平, 原文宏 ((一社) 北海道開発技術センター)  
Chika Nakamae, Nobuyoshi Konishi, Kohei Muranaka, Fumihito Hara

## 1. はじめに

近年、豪雪過疎地域において、急速に進行する高齢化や過疎化による除雪の担い手不足が、深刻な問題となっている。この問題に対し、著者らが所属する「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」(事務局；(一社)北海道開発技術センター)は、雪処理の担い手を地域外から派遣する広域的な除雪ボランティア活動(通称；雪はねボランティアツアー)の実践的研究を2013年から継続して展開してきた(小西ら, 2013)。

広域的な除雪ボランティア活動における参加者の継続性を確保するためには、参加者が活動から何を獲得し、それをどう次回への参加動機につなげているかを知ることが、重要である。これまでの援助行動研究では、援助成果が大きいほど援助成果をもたらしたボランティア活動をその後も継続しようと強く動機付けられたり(妹尾・高木, 2003)、活動継続には、ボランティア同士だけでなく、広く地域の人びとと交流し、自己の活動について肯定的な評価を実感することが大切であるということ(永井, 2013)などが言われている。これらの研究成果と同様に、筆者らが実践してきたこれまでの除雪ボランティア研究からも、参加者はツアー先の高齢者宅の除雪をし、地域の人に喜ばれることで、充足感や貢献感が高まり、活動の継続意図が高まることになっている(小西ら, 2013)。

2015年冬期においては、一般参加者を対象にした日帰りの雪はねボランティアツアーを3地域、計4回実施した。この全4

表1 全4回のツアー参加者数とその内訳

行き先	日程	参加者数	アンケート有効回答者数	初回参加者	リピーター
岩見沢市美流渡	2/7 (土)	33名	12名	7名	5名
倶知安町琴和町内会	2/8 (日)	54名	25名	14名	11名
上富良野町	2/14 (土)	11名	11名	5名	6名
倶知安町六郷振興会	3/8 (日)	62名	26名	12名	14名
合計		160名	74名	38名	36名

回のツアー参加者(現地集合者も含む)は、160名であった。160名の参加者のうち、事前・事後アンケートに回答頂いた有効回答者数は、74名であった。74名のうち、初回参加者が38名、リピーターが36名となっており、参加者の約半数をリピーターが占めていた。

そこで、参加回数の違いにより参加動機や、獲得したエンパワーメントに違いがあるかを調べるために、初回参加者(38名)とリピーター(36名)のそれぞれの参加動機とエンパワーメントを、事前・事後アンケート調査の結果から比較・分析を行うこととした。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象

本研究における調査対象者は、2015年2月～3月における「雪はねボランティアツアー」のツアー参加者160名のうち、事前・事後アンケートに回答して頂いた74名である。74名のうち、ツアーの初回参加者が38名、リピーターが36名であった。

### (2) 調査場所・時期

札幌発着型の日帰り「雪はねボランティアツアー」を、岩見沢市美流渡地区(2月7日)、倶知安町琴和・六郷地区(2月8日・3月8日)、上富良野町扇町地区(2月14日)にて実施した。

### (3) 調査方法

調査対象者に対し、質問紙調査を実施した。対象地域からの復路のバス移動中に、ボランティア参加者に対して、調査者より調査の趣旨を説明した後、調査票を配布した。質問紙に回答を記入直後、ただちに回収を行った。なお、分析は統計処理されるため、個人の特定はされないことについて、口頭で説明し調査協力を依頼した。

### (4) 調査内容

アンケートでは、基本属性に加え、ツアー参加者(初回参加者、リピーター)の参加動機及び、ツアー参加者(初回参加者、リピーター)が得たエンパワーメントについての設問項目を設け、それぞれ、「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答させた。

表2 アンケートの設問項目

分類	設問項目
参加者の基本属性	①性別 ②年齢 ③日頃の除雪作業の有無 ④ボランティア経験の有無
ツアーの参加動機	①互いに助け合わなければならないと思ったから ②除雪作業がボランティア先の人びとに必要だと思ったので ③今までに何かしらのボランティアをしたことがあったから ④ボランティア活動を行って、良い気持ちになったことがあったので ⑤美味しい食事や温泉が楽しめるから ⑥地域の人びととの交流が楽しめるから
参加者が得たエンパワーメント	①ボランティア先から必要とされていると感じ、自信につながる ②除雪ボランティア活動によって、自分の価値を表現できる ③みんなと一緒にやれば、この地域の除雪問題も解決できる ④人や地域に貢献しようという気持ちが芽生える ⑤除雪ボランティア活動を通じて充足感を得ることができる ⑥除雪ボランティア活動を通じて自分自身が成長できる ⑦他のボランティアの人たちとの人間関係の輪が広がる ⑧ボランティア先の地域との交流で、新しい人間関係が生まれる ⑨この地域の人びとに親しみを感じる ⑩一緒にボランティア活動をした人たちに親しみを感じる

## 3. 調査結果

### (1) 初回参加者とリピーターの基本属性

性別は、リピーターも初回参加者も男性が約8割、女性が約2割で、性比はほぼ同じであった(図1)。年齢は、リピーターよりも初回参加者の方がやや若い世代が多い年齢構成となっていた(図2)。

自宅の除雪作業の有無については、初回参加者とリピーターの両者において「除雪している」と回答した割合が約半数を占めており(図3)、ボランティア経験の有無については、初回参加者は、約半数が「ボランティア経験あり」と回答しており、リピーターはほぼ全員が「ボランティア経験あり」と回答していた(図4)。

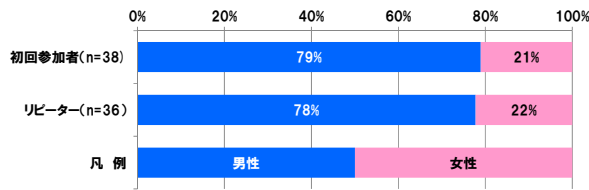


図1 性別

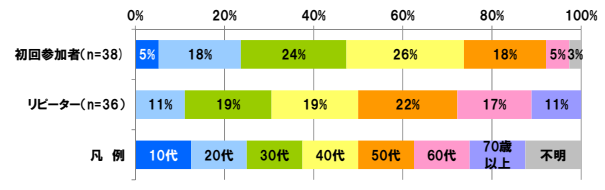


図2 年齢

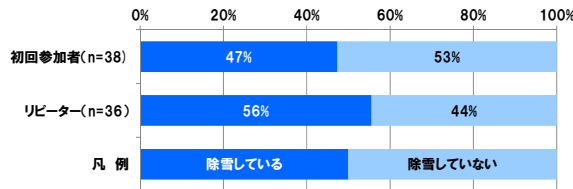


図3 日頃の除雪作業の有無

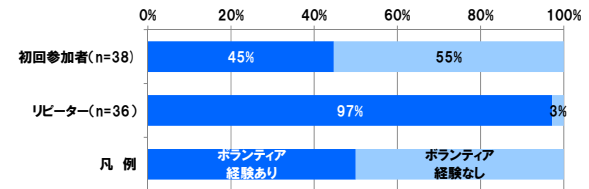


図4 ボランティア経験の有無

(2) 初回参加者とリピーターの参加動機

初回参加者とリピーターの参加動機について比較するために、t-検定(有意水準5%)を行った結果、「①ボランティアの必要性の認識」に関しては初回参加者とリピーターの両者に統計的な有意差は見られなかった。「②ボランティア参加の経験」に関しては、リピーターの平均値が初回参加者の値より有意に高く、「③アクティビティや地域交流といった観光要素」に関しては、「美味しい食事や温泉が楽しめる」という項目でリピーターの平均値が初回参加者の値より有意に高くなっていた。

表3 初回参加者とリピーターの参加動機

設問	平均値 (標準偏差)		t 値	
	初回参加者	リピーター		
①ボランティアの必要性の認識	互いに助け合わなければならないと思	3.89 (1.18)	3.97 (0.94)	0.31
	ったから			
②ボランティア参加の経験	除雪作業がボランティア先の人びとに必要だと思ったので	3.92 (1.30)	3.94 (1.01)	0.09
	今までに何かしらのボランティアをしたことがあったから	2.30 (1.53)	3.67 (1.24)	4.20**
③アクティビティや地域交流といった観光要素	ボランティア活動を行って、良い気持ちになったことがあったので	2.74 (1.52)	3.72 (1.34)	2.95**
	美味しい食事や温泉が楽しめるから	2.95 (1.54)	3.64 (1.36)	2.05*
	地域の人びととの交流が楽しめるから	3.42 (1.35)	3.86 (1.05)	1.56

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , †  $p < .1$

(3) 初回参加者とリピーターが活動から得られたエンパワーメント

初回参加者とリピーターの活動前後のエンパワーメントについて比較するために、各変数における事前と事後の変化についてt-検定(有意水準5%)を行ったところ、初回参加者は除雪ボランティア活動の実施前後で「充足感」、「貢献意欲」、「地域やボランティアへの親近感」の値が有意に増加していた。「有能感」、「自身の価値表現」、「人間関係の拡張」の値については、統計学的に有意ではなかったが増加傾向が見られた。

一方、「リピーター」は、除雪ボランティア活動の実施前後で、エンパワーメントのほとんどの項目において数値の変化は見られなかったが、「成長感」の値について、統計学的に有意ではなかったが減少傾向が見られた。

表4 初回参加者とリピーターの活動の実施前後のエンパワーメントの変化

設 問	初回参加者		t 値	リピーター		t 値	
	事前	事後		事前	事後		
①有能感	ボランティア先から必要とされ、自信につながる	3.24 (1.22)	3.58 (1.22)	-1.84†	3.36 (1.22)	3.80 (0.93)	-1.96†
②自身の価値表現	活動を通して自分の価値を表現できる	2.65 (1.25)	2.95 (1.27)	-1.88†	3.17 (1.00)	3.08 (1.02)	0.65
③有効感	みんなと一緒にやれば、この地域の除雪問題も解決できる	3.53 (1.22)	3.24 (1.22)	-1.77†	3.83 (1.00)	3.80 (0.96)	0.22
④貢献意欲	人や地域に貢献しようという気持ちが生える	3.78 (1.06)	4.29 (0.73)	-2.91**	4.00 (0.68)	4.03 (0.74)	-0.30
⑤充足感	活動を通じて充足感を得ることができる	3.81 (1.08)	4.34 (0.75)	-2.79**	4.17 (0.85)	4.33 (0.72)	-1.23
⑥成長感	活動を通じて自分自身が成長できる	3.66 (1.26)	3.74 (1.16)	-0.39	3.83 (0.88)	3.54 (1.15)	1.71†
⑦人間関係の拡張	他のボランティアの人たちとの人間関係の輪が広がる	3.76 (0.97)	4.16 (0.97)	-1.99†	3.86 (0.93)	3.83 (0.97)	0.14
	ボランティア先の地域との交流で、新しい人間関係が生まれる	3.71 (1.01)	3.34 (1.38)	1.80†	3.78 (0.90)	3.63 (1.06)	1.36
⑧親近感	この地域の人びとに親しみを感じる	3.92 (0.98)	4.42 (0.92)	-2.53*	4.17 (0.77)	4.17 (0.85)	0.00
	一緒にボランティア活動をした人たちに親しみを感じる	3.95 (0.94)	4.58 (0.55)	-3.65**	4.11 (0.76)	4.26 (0.74)	-0.81

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , †  $p < .1$

#### 4. 結論と考察

以上の結果から、初回参加者は、ボランティアの必要性の認識や、地域の人びととの交流がツアーの参加動機となっていたが、リピーターは、その動機に加え、これまでのボランティア経験や、美味しい食事や温泉が楽しめるといった観光要素も参加動機となっており、この点が初回参加者と異なっていた。また、エンパワーメントについては、初回参加者は除雪ボランティア活動を通して、充足感や貢献意欲が高まっており、さらに、ツアーで訪れた地域や一緒に活動したボランティアに親近感を高めていることが分かったが、リピーターは、各設問の事前の数値が高く、活動の実施前後で、エンパワーメントの数値にほとんど変化は見られなかった。

つまり、日頃、ボランティア活動に参加したことのない人ほど、除雪ボランティアツアーの参加により、さまざまなエンパワーメントを獲得し、それが次回以降の参加動機につながっていることが考えられる。一方、リピーターにとっては、ボランティア活動で地域の人に役立ったと実感することに加え、地域の美味しい食事や温泉といった地域ならではの魅力を感じる機会や、地域の人びととの交流機会が含まれていることが活動の継続的な参加動機につながる可能性があることが示唆された。

#### 参考文献

- 1) 小西信義ら, 2013: 北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究(2)ーボランティア活動におけるエンパワーメント・援助出費・継続意図ー, 北海道の雪氷, 第32号, 46-49.
- 2) 妹尾香織・高木修, 2003: 援助行動経験が援助者自身に与える効果: 地域で活動するボランティアに見られる援助効果, 社会心理学研究, 第18巻第2号, 106-118.
- 3) 永井拓己, 2013, 都市コミュニティにおけるボランティア活動の継続に関する一考察ーSCAT法によるテキストデータ分析の試みー, 日本福祉大学健康科学論集, 第16巻, 47-54.